



第172回芥川賞

『DТОPIA(デートピア)』 安堂 ホセ 著

舞台は南太平洋の楽園、ボラ・ボラ島。ひとりの女性を巡り、世界各国 10 人の男たちが繰り広げる恋愛サバイバル…やがてショーの視聴者たちは「自分だけのDТОPIA(デートピア)を編集し始め、楽園の時間は誇張する。人種も、性も、国境も。すべての“当たり前”が崩れ落ちる、新時代の傑作。

『ゲーテはすべてを言った』 鈴木 結生 著

高名なゲーテ学者・博覧強記は一家団欒のディナーで、彼の知らないゲーテの名言と出会う。ティー・バッグのタグに書かれたその言葉を求める旅の先に、行き着いた場所は……。若き才能が描く、アカデミック冒険譚！

第17木2回

『藍を継ぐ海』 伊与原 新 著

数百年先に帰ってくるかもしれない。懐かしい、この浜辺に——。なんとかウミガメの卵を孵化させ、自力で育てようとする徳島の中学生の女の子。老いた父親のために隕石を拾った場所を偽る北海道の身重の女性。山口の島で、萩焼に絶妙な色味を出すという伝説の土を探す元カメラマンの男——。人間の生をはるかに超える時の流れを見据えた、科学だけが気づかせてくれる大切な未来。きらめく全五篇。

新刊情報

本屋大賞

2025年 本屋大賞 『カフネ』 阿部 暁子 著

「おいしい」と泣くことから再生は始まる。

人生のお守りになる一食が繋ぐ愛の物語。

その場に倒れた野宮薫子にかけられたのは「食事はちゃんと摂れていますか」という想像もしなかった小野寺せつなの言葉だった。食べることは生きること。二人の「家事代行」が会おう人々の暮らしを整え、そして心を救っていく。

(カフネ…愛する人の髪に指を通す仕草)

話題の本

話題の本 『人間標本』 湊 かなえ

蝶が恋しい。蝶のことだけを考えながら生きていきたい。蝶の目に映る世界を欲した私は、ある日天啓を受ける。あの美しい少年たちは蝶なのだ。その輝きは標本になっても色あせることはない。

五体目の標本が完成した時には大きな達成感を得たが、再び飢餓感が膨れ上がる。今こそ最高傑作を完成させるべきだ。果たしてそれは誰の標本か。——幼い時からその成長を目に焼き付けてきた息子の姿もまた、蝶として私の目に映ったのだった。

イヤミスの女王、さらなる覚醒。15周年記念書下ろし作品。

新刊情報

寄贈 『みをつくし料理帖』 シリーズ (文庫本)

江戸に下ってきた大坂出身の料理人・漣(みお)が、東西の味の好みや水の違いに苦心しつつも徐々に道を切り拓き、料理を通じて人を幸せにしていく姿を描く。作中には江戸の食事情が盛り込まれ、作中に登場する料理を著者が試行錯誤を重ねつつ実際に作ったレシピを「漣の料理帖」と題し巻末に収録している。



本屋大賞

2023 年本屋大賞 『汝、星のごとく』 凧良 ゆう 著

あなたと生きる、その痛みごと。

風光明媚な瀬戸内の島で育った暁海(あきみ)と母の恋愛に振り回され転校してきた權(かい)。ともに心に孤独と欠落を抱えた二人が恋に落ちるのに時間はかからなかった。ときにすれ違い、ぶつかり、成長していく。生きることの自由さと不自由さを描き続けた著者がおくる、あまりに切ない愛の物語

新刊情報

直木賞候補作
第173回

第 173 回直木賞候補作 『Nの逸脱』 夏木 志朋 著

何気なく開けてしまった隣人の扉、「フツウ」の奥に隠されていたものは——金に困っているペットショップ店員、見知らぬ他人の後をつける女教師、‘本物’の能力を持つ新人占い師。追う者と追われる者が入れ替わり、善と悪が反転していく予測不可能な展開——隣の人たちが繰りひろげる3つの物語。

話題の本

韓国で共感の嵐! 『ビスケット』 キム・ソンミ 著 / 矢島 暁子 訳

「自分は存在感がない」と感じたことのあるすべての人へ贈る1冊。

世の中には誰からも相手にされなくなり、存在感が消えて、目に見えなくなってしまった人たちがいる。——ぼくには、彼ら「ビスケット」が見える。

十代の投票により出版され、全世代に反響!

2024 年韓国の全図書館の司書が選ぶ「今年の1冊」に選定!

『天空遊園地まほろば』 浜口 倫太郎 著

関西の古都、遠い昔に廃園したはずの不思議な遊園地。

ようこそ。ここは、もう二度と会えないあなたの大切な人と「再会」できる場所。残された人々が自分の心と向き合い未来へ歩み出す姿を描く、胸を震わせる感動作! 人生の愛おしさに温かな涙がこぼれる、やさしい5つの物語♡

『クロエとオオエ』 有川 ヒロ 著

お待たせいたしました、ド直球のお仕事ラブコメ。恋と宝石。

「宝石の価値ってそんなに重要？」思いがけない彼女の言葉がぼくを心地よく壊す。

宝石(ジュエリー)を除くと見える美しい別世界(インクルージョン)。

これを表現できるのは彼女(クロエ)だけ。

新刊情報

『脈動』 今野 敏 著

「警視庁本部が患っているということですか？」

狙われた警視庁本部庁舎で、常識を超えた力が蠢く——。

不祥事で崩壊寸前の警察。巡查部長・富野は—— ‘亡者祓い’を招集する。

警察小説×伝奇ミステリ 圧巻のエンターテインメント!

『容疑者Xの献身』 東野 圭吾 著

天才数学者でありながら不遇な日々を送っていた高校教師の石神。

隣人の母娘が前夫を殺害したことを知った彼、2人を救うため完全犯罪を企てる。

だが皮肉にも、彼のかつての親友である物理学者の湯川学が、その謎に挑む。

ガリレオシリーズ初の長篇、直木賞受賞作。



手子林公民館 新刊情報③ 令和7年度

第174回芥川賞

『時の家』 鳥山 まこと 著

第174回芥川賞&第47回野間文芸新人賞受賞作！

ある家に暮らしていた三代の住人たちの存在と記憶、感情がよみがえる——。
三田文学新人賞でデビューした注目の小説家が傑出した完成度で描く、
あたらしい建築文学。

『叫び』 畠山 丑雄 著

政と聖を描く、衝撃の芥川賞受賞作。いつしか昭和と令和がつながり、封印されていた声が溢れ出す。大阪と大陸で響き合う夢とロマン、恋愛政治小説。

新刊情報

第174回直木賞

『カフェーの帰り道』 嶋津 輝 著

東京・上野のカフェーで女給として働いた、“百年前のわたしたちの物語”
時代を映す鏡であった仕事「女給」を通し、大正から昭和を生きた市井の
女性の人生を描き出す。『襷がけの二人』の著者、心ふるえる最新作。

話題の本

令和最強の青春小説シリーズ堂々完結！

『成瀬は都を駆け抜ける』 宮島 未奈 著

唯一無二の主人公、膳所から京都へ！

高校を卒業し、晴れて京大生となった成瀬あかり。

新たな仲間たちと出会った成瀬の次なる目標は「京都を極める、！」

最高の主人公に訪れる、究極のハッピーエンドを見届けよ！

「3+1 回泣ける」お葬式小説

『ほどなく、お別れです』 第一弾・第二弾 長月 天音 著

この葬儀場では、奇蹟が起きる。

夫の五年にわたる闘病生活を支え、死別から二年の歳月をかけて書き上げた。

ある葬儀場には、僧侶と組んで、訳ありの葬儀ばかり担当する男性スタッフがいる。

その男性スタッフは他のスタッフには毒舌だが、

亡くなった人と、遺族の思いを繋ごうと心を尽くす葬祭ディレクターだった。

2023年映画公開

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』 汐見 夏衛 著

親や学校、すべてにイライラした毎日を送る女子中学2年生。

目をさますとそこは70年前、戦時中の日本だった。

偶然通りかかった彼。彼と過ごす日々の中、誠実さと優しさに惹かれていく。

しかし、彼は特攻隊員。涙なくしては読めない、怒濤のラストは圧巻！。

2026年映画化！『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』続編

『あの星が降る丘で、君とまた出会えたい。』 汐見 夏衛 著

初めて会ったはずの君に僕はどうしようもなく惹かれた

初めて会うのになぜか懐かしく、ずっと前から知っていたような不思議な感覚。

彼女の75年前の戦時中にまつわる驚くべき話——悲しすぎる過去の恋物語

好きな人に、忘れられない過去の恋があったら、それでも思いを貫けますか？

愛することの意味を教えてくれる感動作。

新刊情報